

東京応化工業株式会社 決算説明会資料

-2014年3月期決算-

2014年5月9日

目次

- 1. 2014年3月期連結決算** **p.2**
- 2. 2015年3月期通期連結決算予想** **p.12**
- 3. tok中期計画2015の取組み** **p.19**

**2014年3月期
連結決算**

業績概要

(百万円、%)

	2013/3	2014/3		
			増減	増減率
売上高	72,919	75,269	+2,349	+3.2
営業利益	7,872	10,025	+2,152	+27.3
経常利益	8,617	12,269	+3,652	+42.4
当期純利益	5,443	7,549	+2,106	+38.7

- 期中平均為替 (USD_円) : 81.9円/ドル (2013/3) ⇒ 99.3円/ドル (2014/3)
- 売上高 : 材料事業が増収を牽引、前年比3.2%の増収。
- 営業利益 : 材料事業の大幅増益により、前年比27.3%の増益。
- 経常利益 : 営業利益の増加に為替差益が加わり、前年比42.4%の増益。

營業外損益・特別損益

(百万円)

	2013/3	2014/3	前年比
營業外損益	744	2,243	+1,499
(營業外収益)	(1,049)	(2,503)	+1,453
受取利息・配当金	272	309	+36
為替差益	216	1,391	+1,174
(營業外費用)	(305)	(259)	△46
休止固定資産減価償却費	78	31	△46
租税公課	102	187	+85
特別損益	△585	△603	△17
(特別利益)	(7)	(291)	+283
固定資産売却益	7	31	+23
投資有価証券売却益	—	87	+87
関係会社清算益	—	172	+172
(特別損失)	(593)	(894)	+301
減損損失	256	856	+599
投資有価証券評価損	286	—	△286

事業別セグメントの業績

(百万円、%)

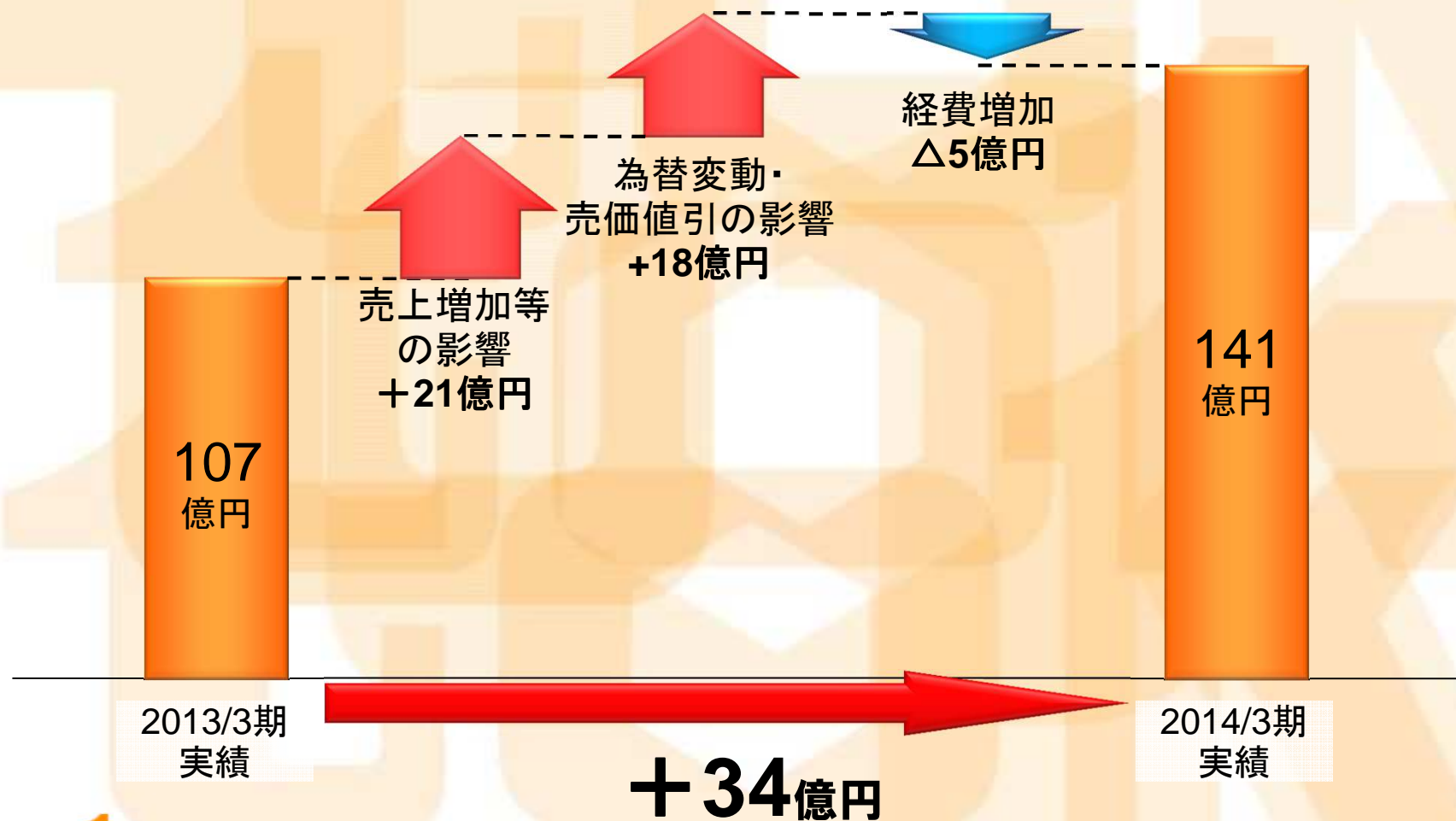
	2013/3	2014/3		
		増減	増減率	
売上高	72,919	75,269	+2,349	+3.2
材料事業	67,697	72,866	+5,169	+7.6
エレクトロニクス機能材料	43,116	43,261	+145	+0.3
高純度化学薬品	24,144	29,194	+5,049	+20.9
その他	435	410	△24	△5.6
装置事業	5,222	2,402	△2,819	△54.0
営業利益	7,872	10,025	+2,152	+27.3
材料事業	10,716	14,086	+3,369	+31.4
装置事業	232	△889	△1,121	—
消去又は全社	△3,075	△3,171	△95	—

(注) 装置事業の売上は消去後の数字。

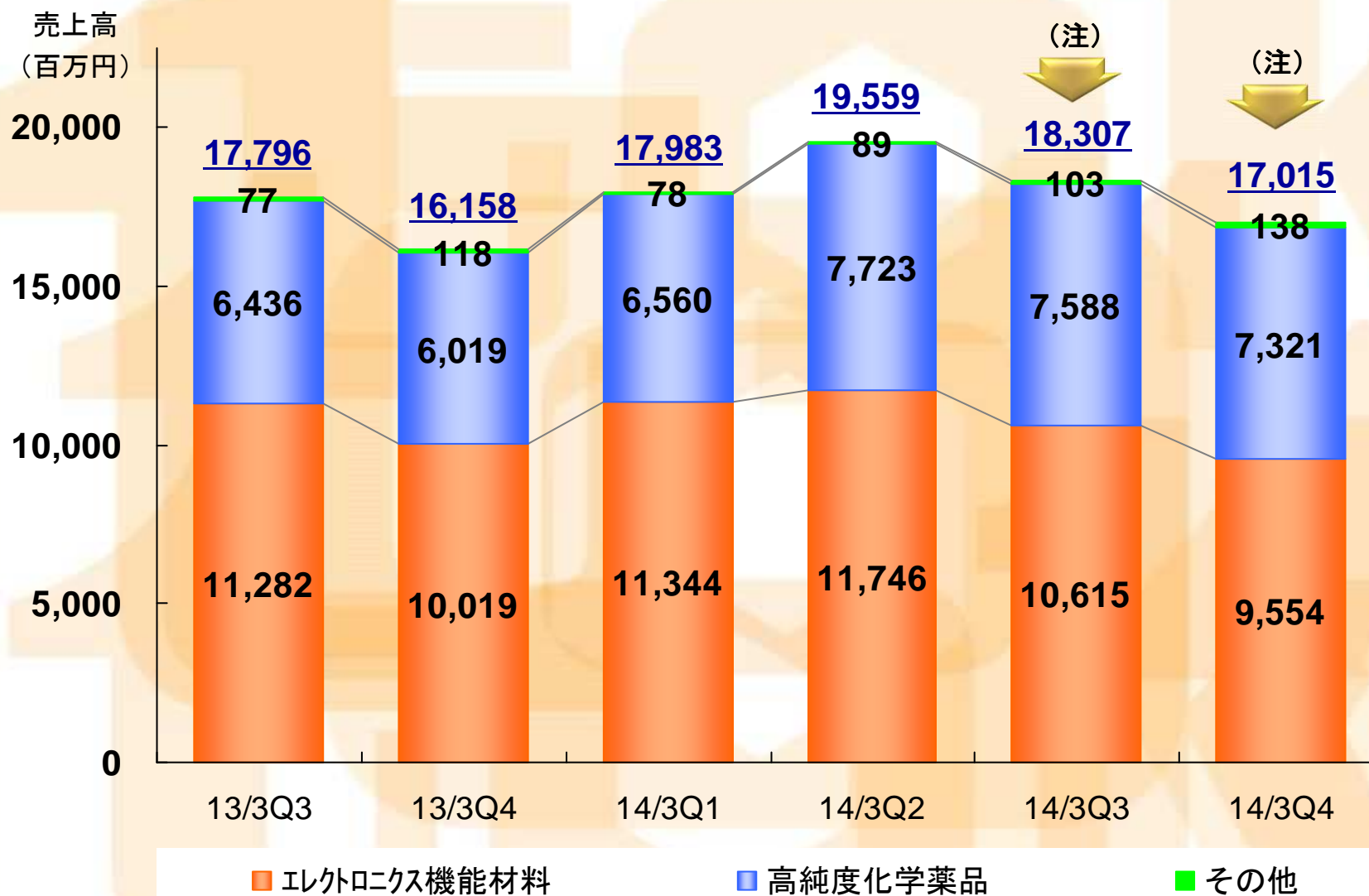
(注) 韓国子会社の営業開始に伴い、販路を一部変更しております。

営業利益の増減内訳（材料事業）

2013年3月期実績 対 2014年3月期実績



材料事業の売上内訳

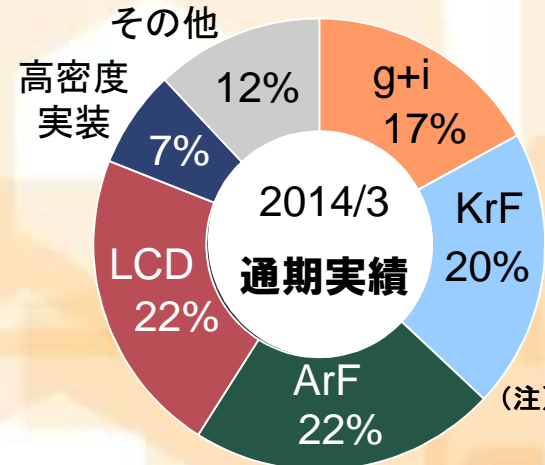
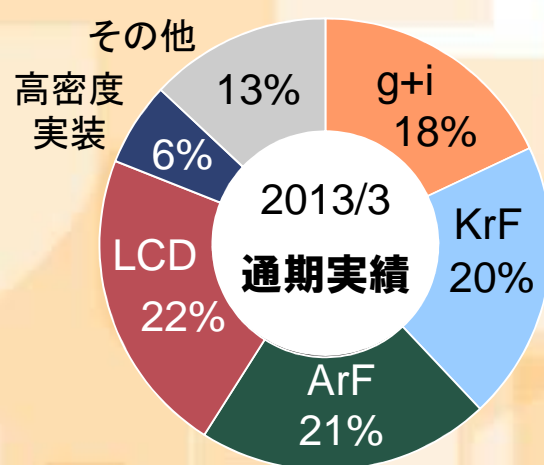


(注) 韓国子会社の営業開始に伴い、販路を一部変更しております。

東京応化工業株式会社と子会社間の決算期の違いから、14/3 Q3-Q4の売上高にマイナスの影響が出ております。

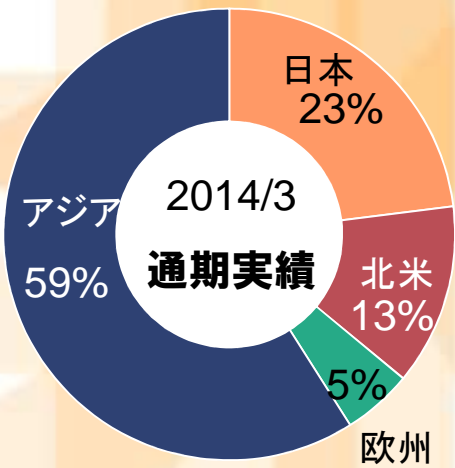
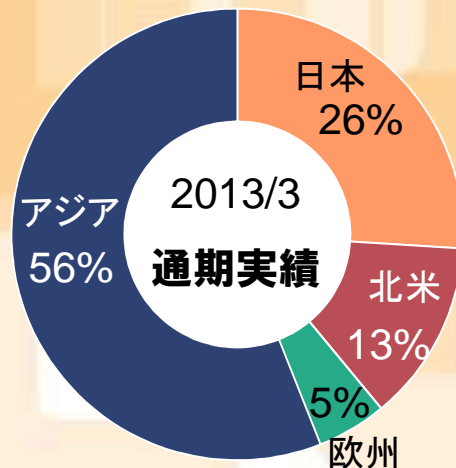
(ご参考) エレクトロニクス機能材料部門

エレクトロニクス機能材料の種類別売上構成



(注) 高密度実装:レジスト材料、MEMS材料、WHS材料

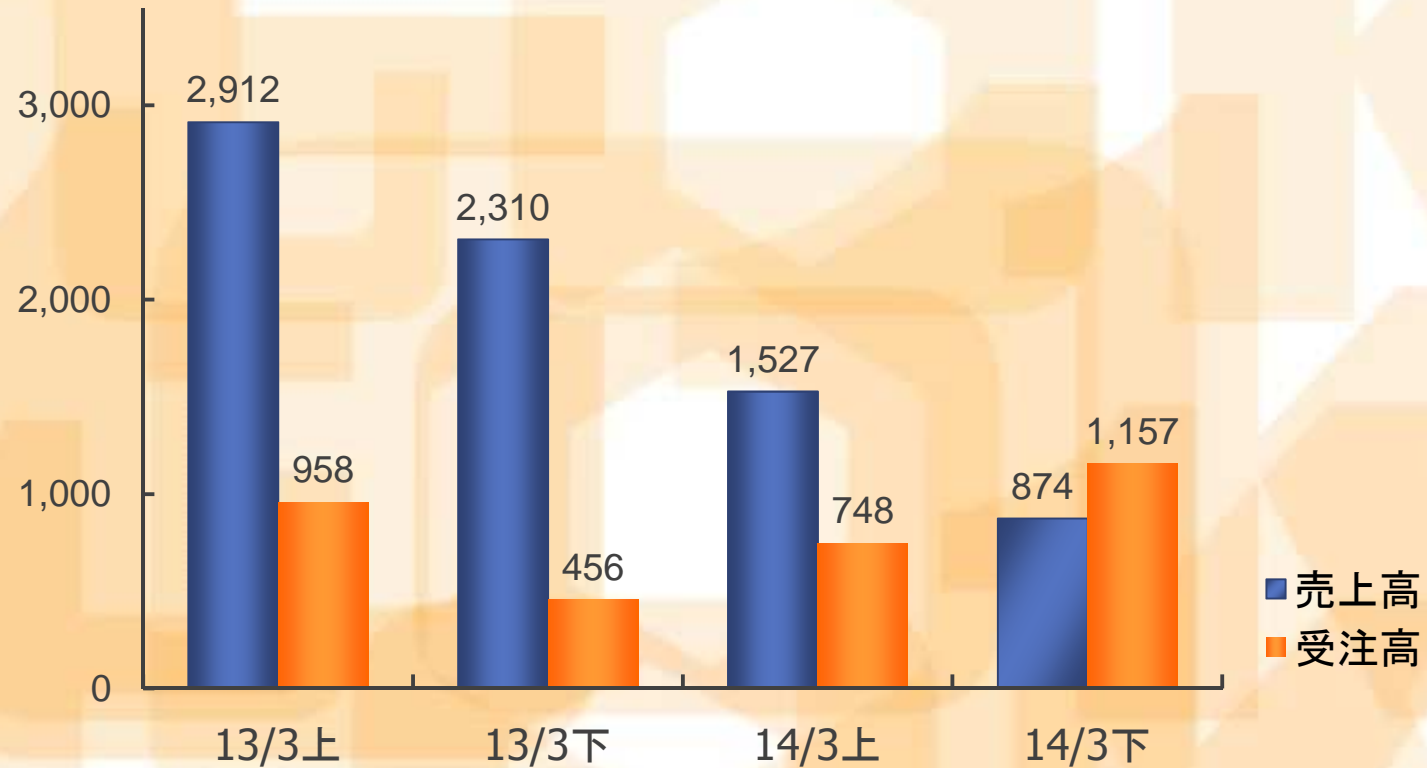
半導体フォトレジストの地域別売上構成



(注) エレクトロニクス機能材料の種類別売上構成(2014/3通期実績)及び半導体フォトレジストの地域別売上構成(2014/3通期実績)は、販路変更に伴う売上高への影響を考慮した数値を使い作成しております。

装置事業

売上高・受注高
(百万円)



(百万円)	13/3上	13/3下	14/3上	14/3下
期末受注残高	3,401	1,547	769	1,051

比較貸借対照表

(百万円)

	2014/3	13/3末比	
流動資産	83,247	△3,611	
現金預金	53,371	△3,699	
売上債権	16,623	+335	
たな卸資産	10,446	△53	
有形固定資産	44,577	+13,519	建物及び構築物 +1,531 機械装置 +757 工具器具備品 +269 土地 +773 建設仮勘定 +10,188
無形固定資産	649	+311	
投資その他の資産	27,384	△25	
流動負債	14,377	△636	
買入債務	5,744	△148	
固定負債	1,518	△1,293	利益剰余金 +5,389 自己株式 +118 為替換算調整勘定 +4,104 退職給付に係る調整累計額 +1,380
純資産合計	139,962	+12,124	
総資産	155,859	+10,194	

キャッシュフロー

(百万円)

	2013/3	2014/3	
営業キャッシュフロー	+12,438	+11,881	
税金等調整前当期純利益	+8,031	+11,666	
減価償却費	+3,758	+2,672	
貸倒引当金の増減(△)額	△118	△925	
売上債権の増(△)減額	+3,458	+720	
たな卸資産の増(△)減額	+1,633	+1,018	装置事業の検収進行
仕入債務の増減(△)額	△922	△449	
前受金の増減(△)額	△1,989	△652	
法人税等の支払い	△1,225	△2,583	
投資キャッシュフロー	△75	△14,491	主な内訳 有形固定資産の取得 △14,616
財務キャッシュフロー	△1,386	△2,471	主な内訳 配当金の支払 △2,485 (含む少数株主)
換算差額	+1,429	+1,058	
現金及び現金同等物の増減(△)額	+12,405	△4,023	

**2015年3月期通期
連結決算予想**

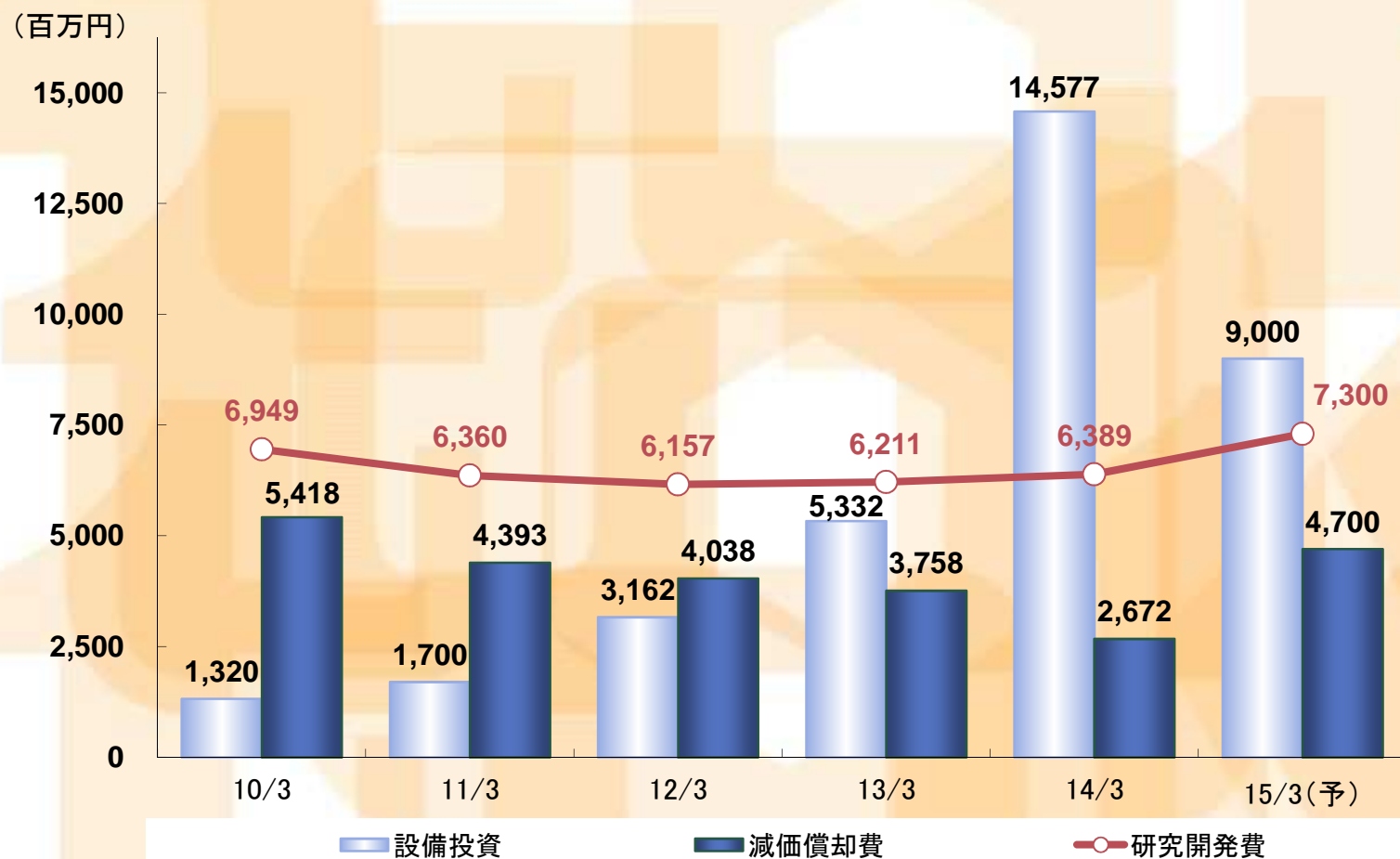
業績予想概要（通期）

（百万円、％）

	2014/3 実績	2015/3予想	
		増減	増減率
売上高	75,269	83,500	+8,230 +10.9
営業利益	10,025	9,800	△225 △2.2
経常利益	12,269	10,300	△1,969 △16.1
当期純利益	7,549	7,400	△149 △2.0

- 為替前提（USD/円）：99.3円/ドル（2014/3）⇒100.0円/ドル（2015/3）
- 売上高：材料事業の増収、装置事業の回復から前年比10.9%の増収。
- 営業利益：増収効果を見込むものの、減価償却費の増加が大きく、前年比△2.2%減益。
- 経常利益：為替差益等を見込まず、反動減（前年比△16.1%減益）。

設備投資・減価償却・研究開発



事業別セグメント業績予想

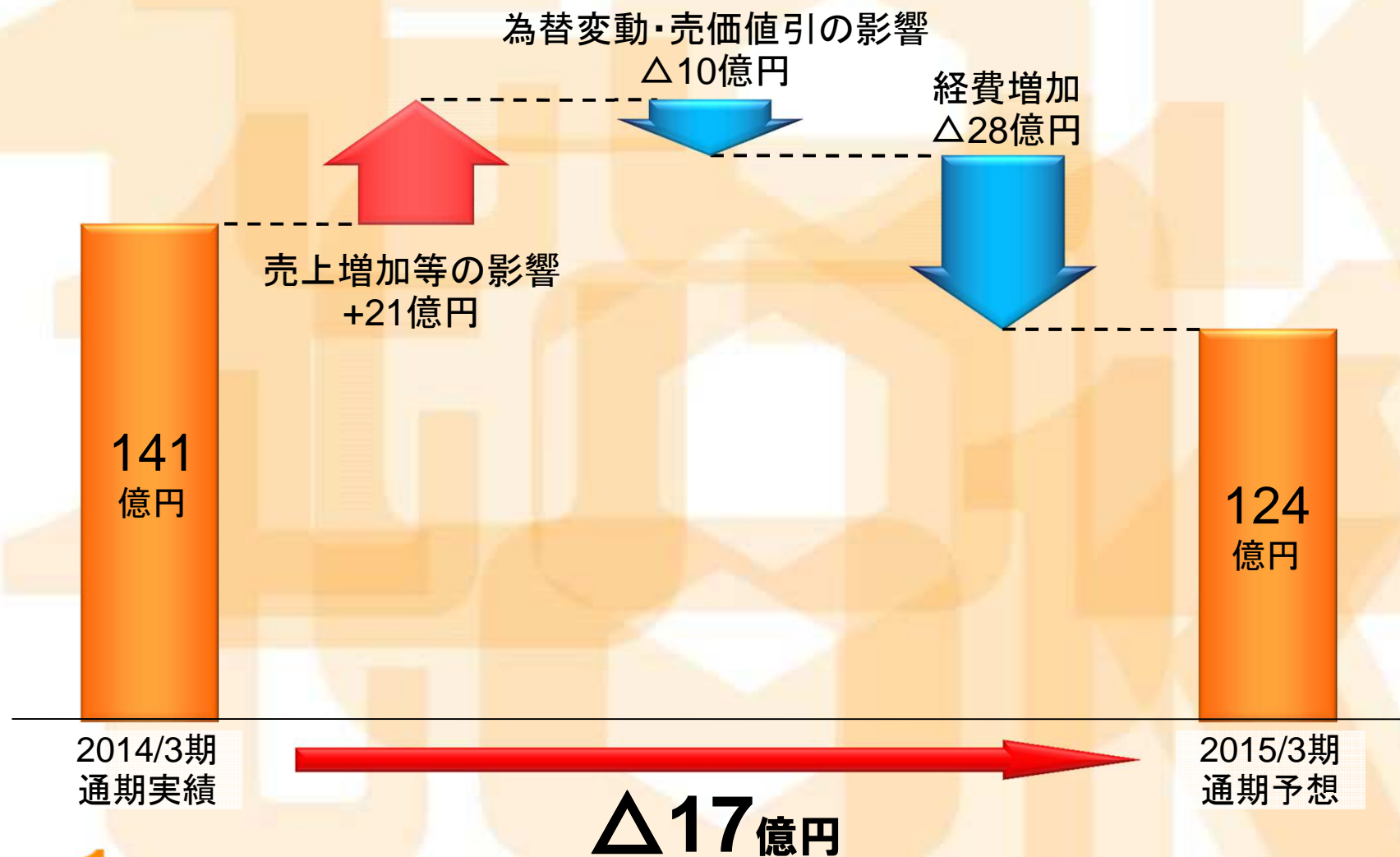
(百万円、%)

	2014/3 通期実績	2015/3通期予想	
		増減	増減率
売上高	75,269	83,500	+8,230 +10.9
材料事業	72,866	78,600	+5,733 +7.9
エレクトロニクス機能材料	43,261	46,900	+3,638 +8.4
高純度化学薬品	29,194	31,600	+2,405 +8.2
装置事業	2,402	4,900	+2,497 +103.9
営業利益	10,025	9,800	△225 △2.2
材料事業	14,086	12,400	△1,686 △12.0
装置事業	△889	600	+1,489 -
消去又は全社	△3,171	△3,200	△28 -

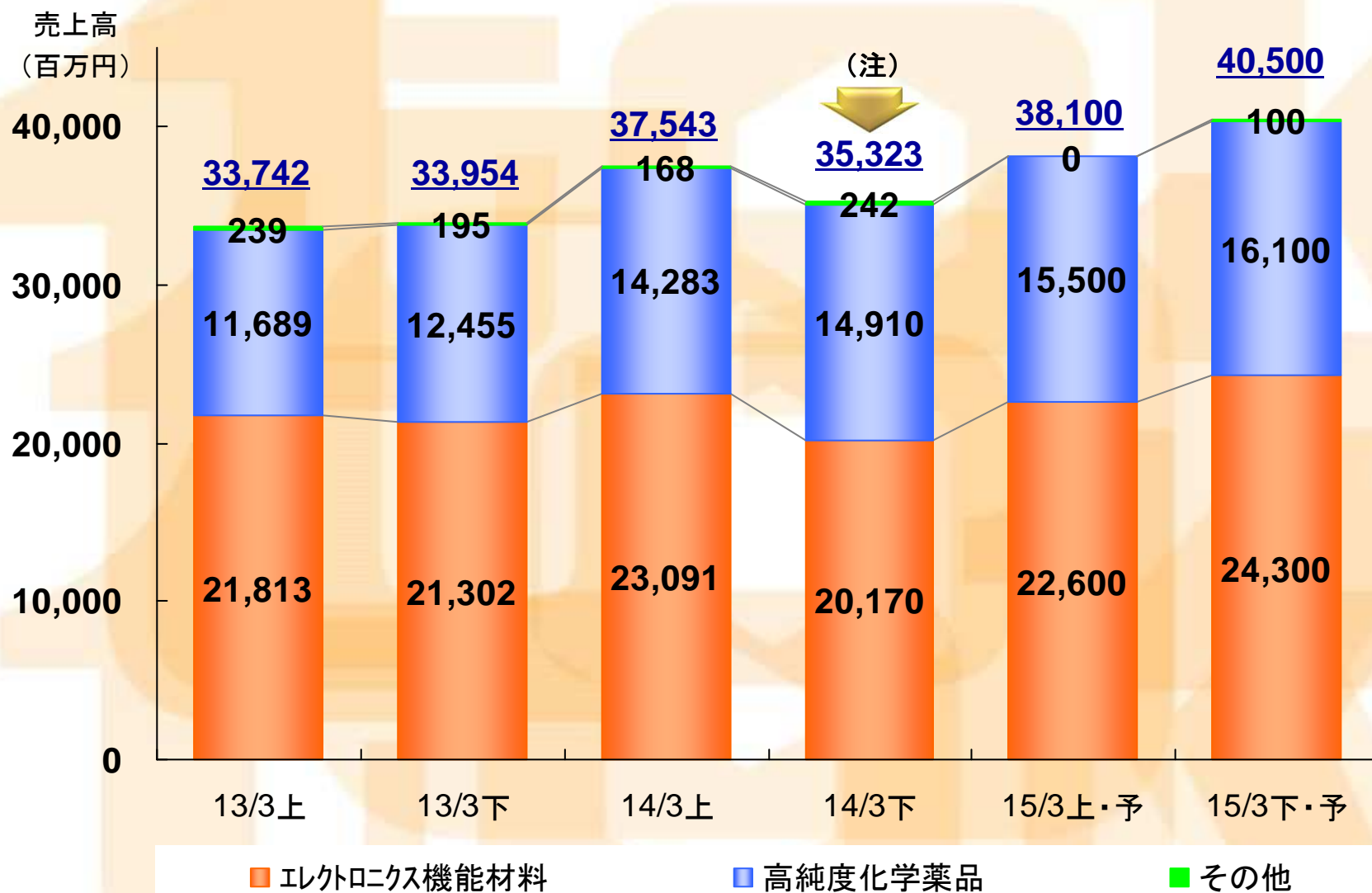
(注) 装置事業の売上は消去後の数字

営業利益の増減内訳（材料事業）

2014年3月期実績 対 2015年3月期予想



材料事業の売上内訳（予想）

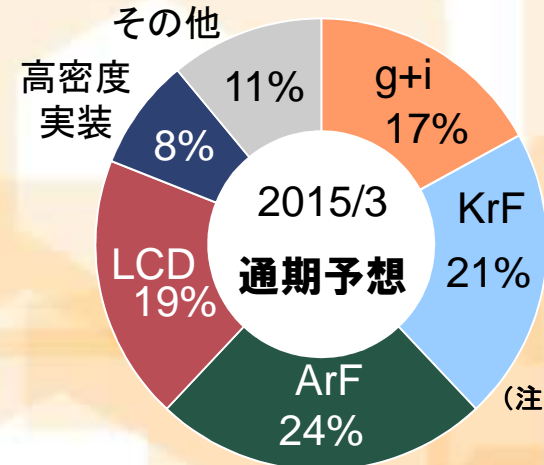
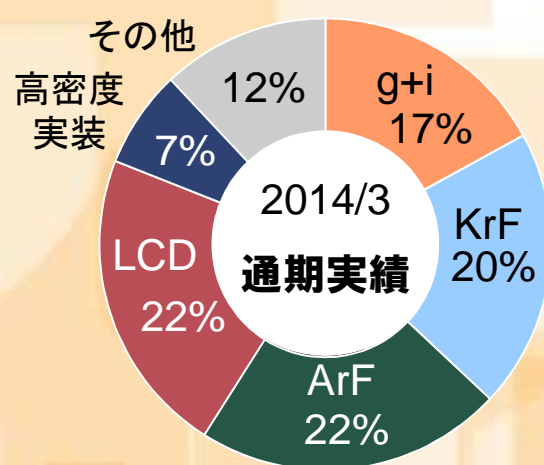


(注)韓国子会社の営業開始に伴い、販路を一部変更しております。

東京応化工業株式会社と子会社間での決算期の違いから、14/3 下の売上高にマイナスの影響が出ております。

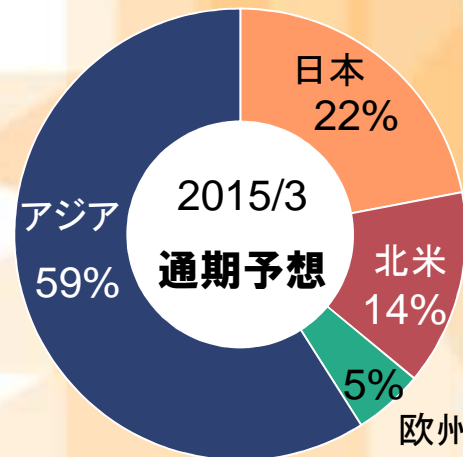
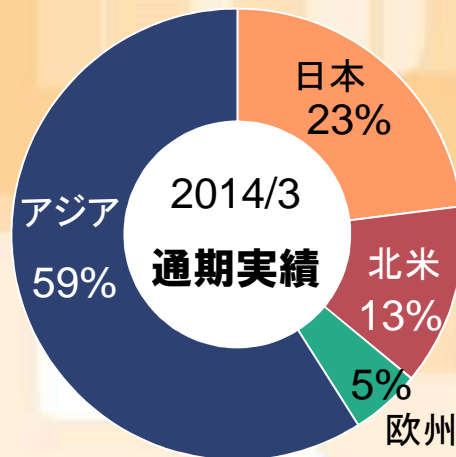
(ご参考) エレクトロニクス機能材料部門

エレクトロニクス機能材料の種類別売上構成



(注) 高密度実装:レジスト材料、MEMS材料、WHS材料

半導体フォトレジストの地域別売上構成



(注) エレクトロニクス機能材料の種類別売上構成(2014/3通期実績)及び半導体フォトレジストの地域別売上構成(2014/3通期実績)は、販路変更に伴う売上高への影響を考慮した数値を使い作成しております。

tok中期計画2015の取組み

tok中期計画2015概要

■ 経営ビジョン

- 『高付加価値製品による感動を通じて、世界で信頼される企業グループを目指す。』
- 連結営業利益:200億円(2020年度目標)

■ 経営目標

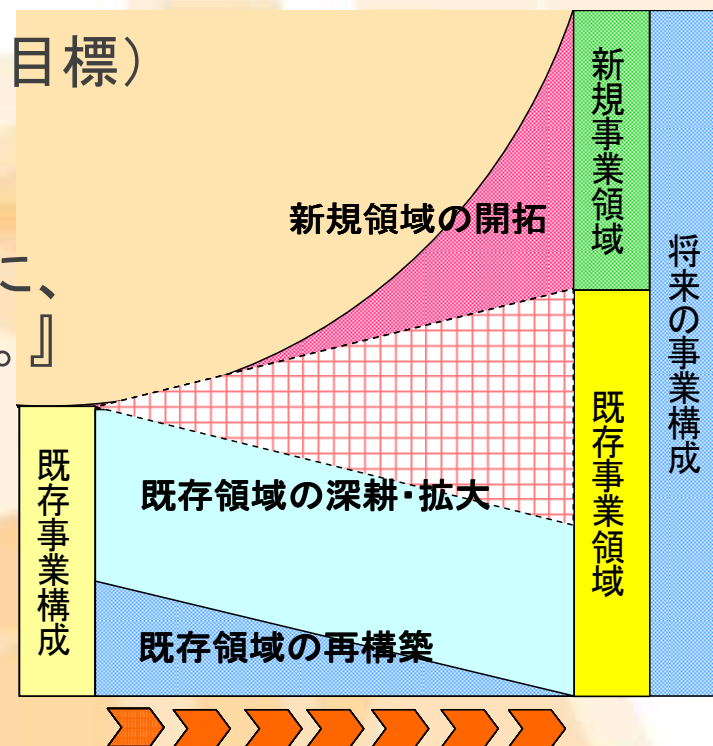
- 『既存領域の深耕・拡大を図ると共に、新規領域の早期立ち上げを目指す。』

■ 数値目標 (2016/3)

- 売上高 :990億円
- 営業利益:150億円

■ tok中期計画2015の特徴

- 「過去最高益の更新」「事業基盤の増強」「事業領域拡張」



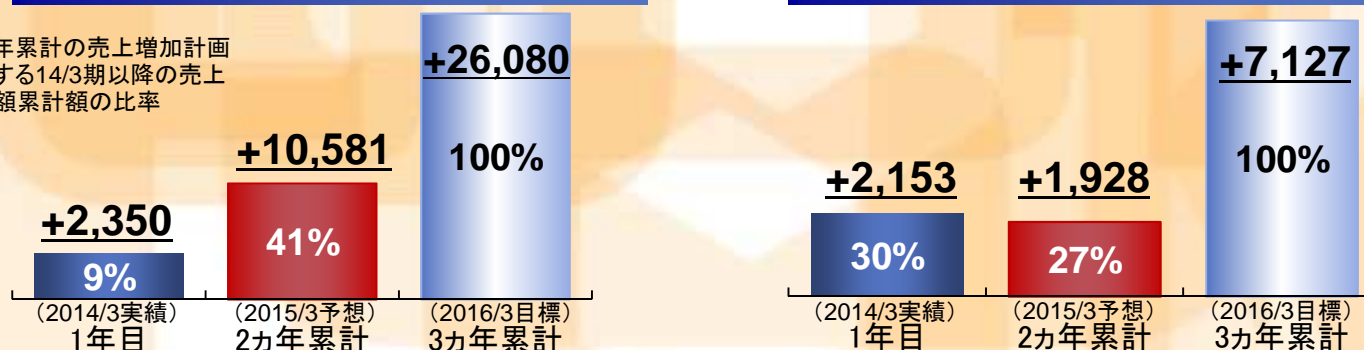
数値目標に対する進捗

(百万円)	2013/3実績	2014/3実績	2015/3予想	2016/3目標	13/3⇒16/3増減
売上高	72,919	75,269	83,500	99,000	+26,080
材料事業	67,697	72,866	78,600	88,000	+20,302
エレクトロニクス機能材料	43,116	43,261	46,900	62,300	+19,183
高純度化学薬品	24,144	29,194	31,600	25,500	+1,355
その他	435	410	100	200	△235
装置事業	5,222	2,402	4,900	11,000	+5,777
営業利益	7,872	10,025	9,800	15,000	+7,127
材料事業	10,716	14,086	12,400	16,800	+6,083
装置事業	232	△889	600	1,500	+1,267
消去又は全社	△3,075	△3,171	△3,200	△3,300	—

連結売上高(売上増加計画):進捗率

連結営業利益(利益増加計画):進捗率

進捗率: 3カ年累計の売上増加計画
に対する14/3期以降の売上
増加額累計額の比率



■ 高純度化学薬品が想定を大幅に上回る水準での推移が予想され、売上拡大は2年目も維持されるものの、2016/3目標達成に向けた進捗はペースダウン。

● エレクトロニクス機能材料:
新規/切替の積極的な獲得を計画するも、目標に届かず新製品等の上市遅延、ユーザーニーズの変更等が影響。

地域密着戦略

“スピード”・“品質”・“レスポンス”を鍵とした最適体制の構築
半導体先端プロセスにおいて**強固な事業基盤構築**を目指す

tok

TOKヨーロッパ社
本社（オランダ）

長春應化（常熱）社
本社／常熱工場

T O K ア メ リ カ 社
本社／オレゴン工場（オレゴン州）
販売事務所（カリフォルニア州）
テキサス販売事務所（テキサス州）

ArFのシェアアップ・プラスα効果の実現

上海駐在員事務所

シンガポール事務所

台湾東應化社
本社（新竹市）／苗栗工場（苗栗市）

T O K 尖 端 材 料 社
本社／工場（韓国）

TOK尖端材料社（韓国）

TOK尖端材料社トピックス

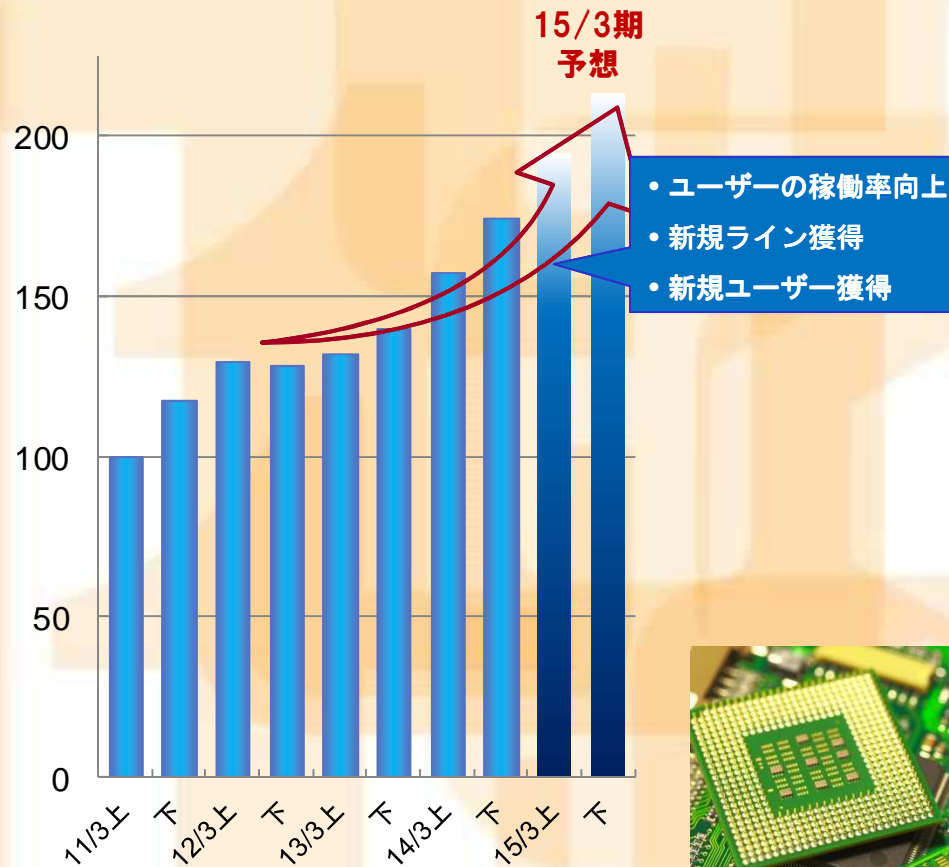
- ✓ 2013年11月：生産体制確立
- ✓ **2014年1月：研究開発始動**
- ✓ 2014年7月：フォトレジストの量産開始予定



tok

高密度実装材料

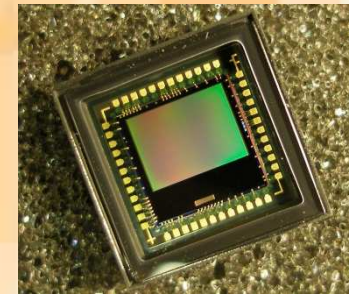
高密度実装材料の売上高



(注) 11/3上期の売上高を100として指数化。

スマホ、タブレット、ウェアラブル端末の市場拡大

- LSIの高集積化、高性能化に適応した先端パッケージ向け実装材料の採用獲得により売上増加。
- 各種MEMSデバイス市場の立上がりと今後の更なる成長を狙い、日本、米国、アジアのマーケティングを強化。



新規事業・新規材料

■ 新規事業の進捗・取組みの状況

分野	製品	進捗/取組み/状況			
		市場調査・研究	製品開発	ユーザー評価	販売 含：有償サンプル
半導体製造装置	シリコン貫通電極形成システム				・拡販中
再生可能エネルギー	化合物系太陽電池材料				・ユーザー評価中
	太陽熱発電関連材料				・ユーザー評価中
	Si系太陽電池材料				・拡販中
蓄電材料	リチウムイオン電池材料				・製品開発中
	マイクロ二次電池				・製品開発中
オプトエレクトロニクス	LEDフォトリソニック結晶				・ユーザー評価中
	OLED照明材料				・ユーザー評価中
ライフサイエンス	バイオチップ				・ユーザー評価中

2020年度目標：

新規事業売上高 500億円 創出

装置事業：現状と今後の取組み

装置事業(百万円)	2013/3 実績	2014/3 実績	2015/3 予想	2016/3 目標	13/3⇒16/3 増減
売上高	5,222	2,402	4,900	11,000	+5,777
営業利益	232	△889	600	1,500	+1,267

装置事業の現状

- 売上計画の遅延が初年度に発生。主因はTSV市場の立ち上がり遅延。
- 受注環境の前提を見直し、新たな環境に基づく、事業展開・強化策が必要。
 - TSV装置の受注環境：(当初計画)量産需要の立ち上がり⇒(現在)試作機中心の需要が続く



今後の取組み

- 組織改編や原価低減の推進により販売力を強化。
- 新たな装置事業分野の探索。新製品の拡充、装置事業の収益安定化。

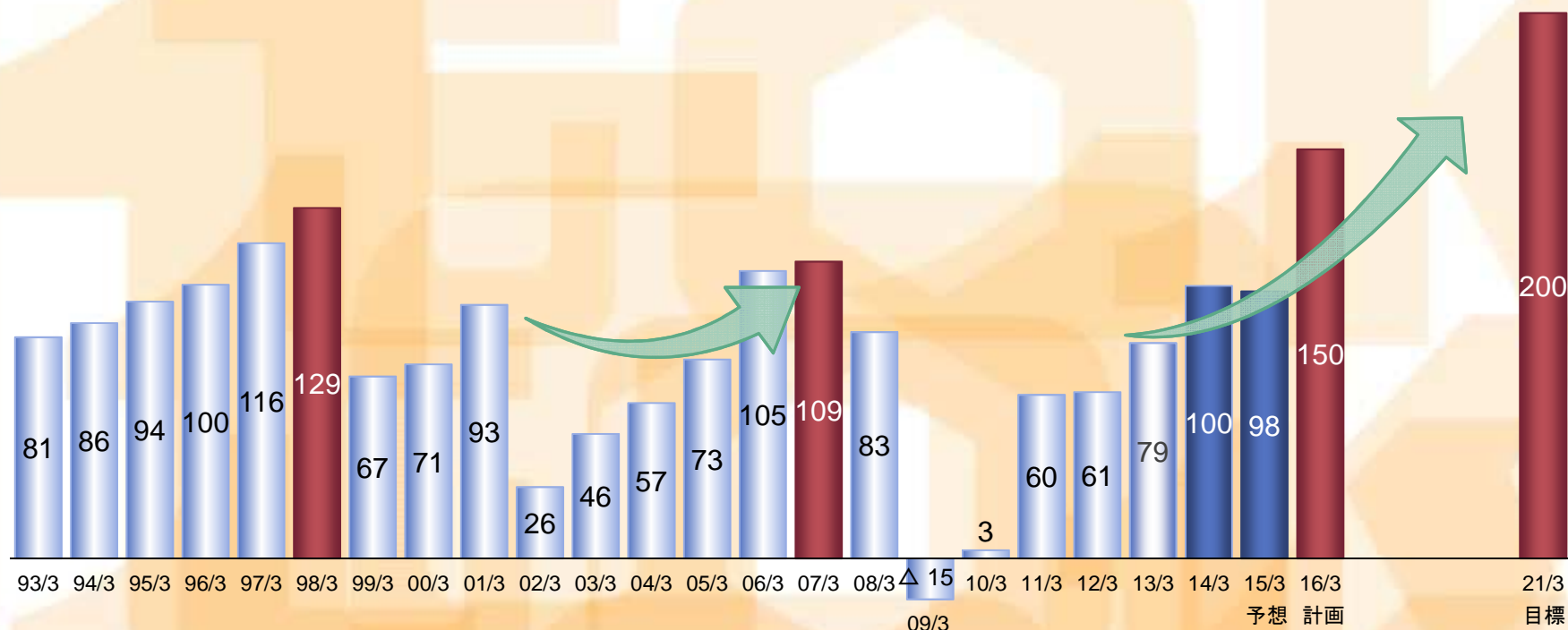
2016/3期の製品構成イメージ



(注) 図の大きさと売上規模を示していません。

tokグループの目指す将来像に向けて

連結営業利益の推移



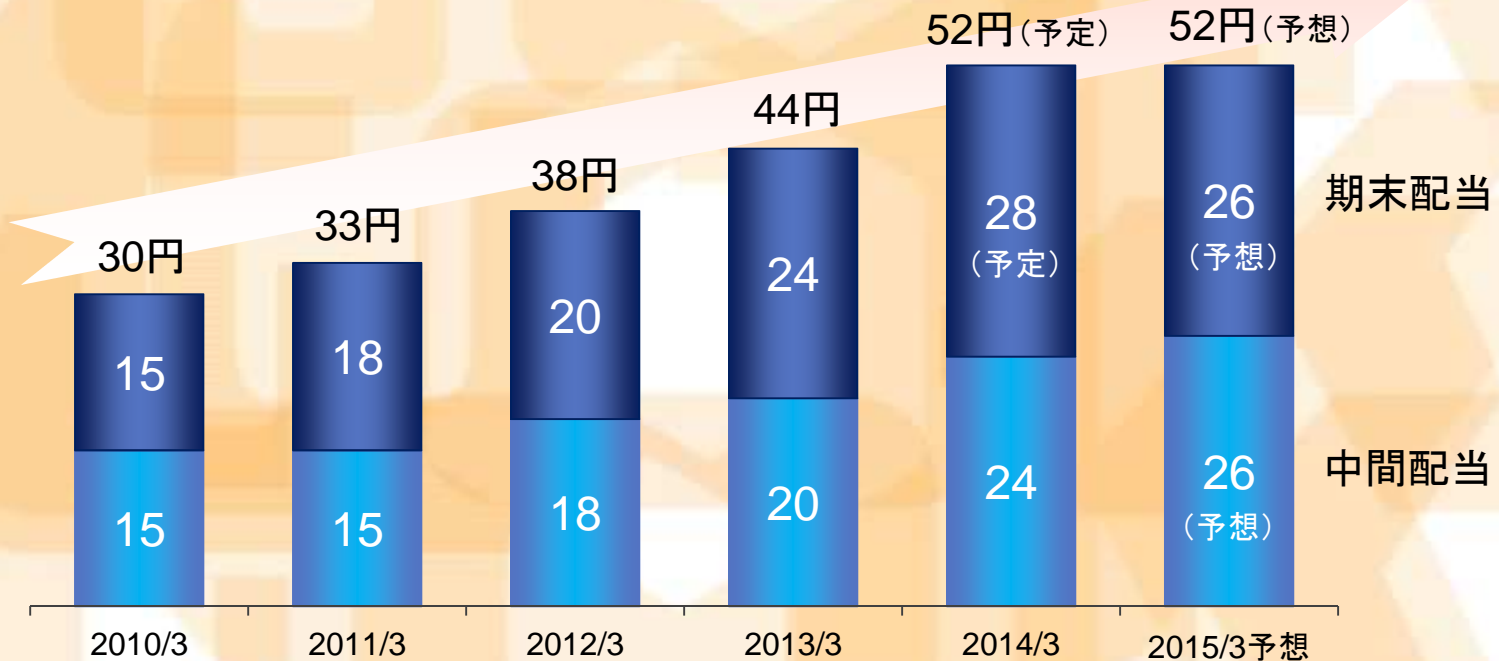
- 営業利益150億円⇒過去最高益更新の指標。
- “2016/3期:営業利益150億円”の進捗に遅れは否めないが、目標値の実現に向け、各施策を確実に実行する。
- 持続可能な成長を実現できる事業構造の構築を目指す。

株主還元・配当政策

株主還元に関する基本方針(ポイント)

- (1) 現在の水準を考慮しつつ**連結配当性向30%以上**の配当を**継続的**に実施
- (2) 長期的な視点に立ち、財政状態や業績等を総合的に勘案
- (3) 自己株式の取得は長期的な見地からの株主還元策として弾力的に実施

1株当たり配当金(円)



連結EPS	5.66円	81.08円	84.86円	121.69円	168.54円	165.09円
配当性向	530.0%	40.7%	44.8%	36.2%	30.9%	31.5%

<http://www.tok.co.jp/>

（ご注意）

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。したがって、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。